



報道関係者各位

令和元年 9月 19日
青森県立保健大学

初の学生の短期海外研修の実施 ベトナム国ナムディン看護大学との学術・教育交流協定

I. 背景

本学は、ベトナム国ナムディン看護大学及びベトナム国立栄養研究所との相互交流を通じて学術と教育の向上を図ることを目的に、2018年9月24日にナムディン（首都ハノイから約100km）において交流協定を締結した。ナムディン看護大学は2018年9月に栄養学科を設置し、第一期生15名が2年次に進級した。本協定の下では、まず栄養学科学生の教育交流を進め、今後は共同研究の実施、さらには大学院生の交換留学などへと発展させることが期待されている。今回は5名の栄養学科学生が2019年9月12日から14日までナムディンを訪れ、両国学生間の交流を行った。

II. 実施経過

栄養学科において、興味のある学生(2~4年生)を募った。参加希望の理由、ベトナムで学びたいことについてのレポート提出、面談を実施し、最終的に2年生1名、3年生1名、4年生3名、計5名の学生を選抜した。渡航に先立ち、学生は英語での自己紹介の資料作成、グループワーク(GW)のテーマについて事前学習し、研修に備えた。また、訪問最終日には学生同士が自由に交流する時間を設け、その計画を学生同士がEメールにより事前に相談・調整した。

ナムディン看護大学での初日、キャンパスを案内していただき、栄養学科の教室、看護学科学生の授業・実習風景、学生寮、食堂などを見学した(写真1)。午後は、大学及び学科紹介等の後、両国学生の自己紹介、5つのグループに分かれて双方が準備してきた内容を共有、英語でのディスカッション(写真2)を行った。2日目は、双方のプレゼント交換(写真3)、集合写真撮影(写真4)の後、ベトナム国立栄養研究所の所長 Prof Tuyen、本学栄養学科教授吉池信男の講義を受けた後、各グループはディスカッション内容をまとめ、プレゼン資料(英語、ベトナム語)を作成し、発表した(写真5、6)。本学の学生は、英語での質問に対する応答を含めて、しっかりとプレゼンを行った(写真7)。3日目は、学生の自主性に任せ、ベトナムの学生がナムディンの名所を案内し、その歴史や市内の様子を楽しみながら肌で学んだ。さらに、本学教員・学生がお世話になったナムディンの先生方、学生さんたちを招待する形で「さよなら昼食会」を催し、帰国前のひと時をより親しく盛り上げて楽しんだ(写真8)。

III. 注目点 ~今後に向けて~

本学の学生にとっては初めての海外であり、外国人との交流であったにもかかわらず、ベトナムの学生が日本に来たらどのようにしたらよいかと考えるくらいに、さらに交流を続けたい、もてなしたいという気持ちを強くもった様子であった。また、ベトナムの食や文化に触れ、ベトナムの同年代の学生と直接話をする事により、ベトナムの栄養を取り巻く様々な現状を実感し、それを自分のキャリアに反映させる、大学院への進学を含めて自分の将来を改めて新しい視点から考え始めたという学生もあり、短期間ではあったが直接交流することの意義が感じられた。このように、専門(栄養学)のより深い学びという目的の下で、ツールとして「英語」を使うことを通じ、英語学習に対する達成目標の設定と明確な動機付けを図ることもできた。今後の本学における「国際交流」の目的と戦略を考える上でも、たいへん有意義であった。

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間瀬58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当: 地域連携・国際センター長 吉池 信男

事務局 地域連携推進課 岡嶋 雅昭

(写真1) キャンパスの見学 (栄養学科の教室)



(写真2) 日本1名、ベトナム3名の学生によるワーク



(写真3) 学生間でのプレゼント交換



(写真4) 集合写真 (学長、研究所長とともに)



(写真5) グループワークの発表1



(写真6) グループワークの発表2



(写真7) 英語での質問に対する受け答え



(写真8) 学生間の交流

